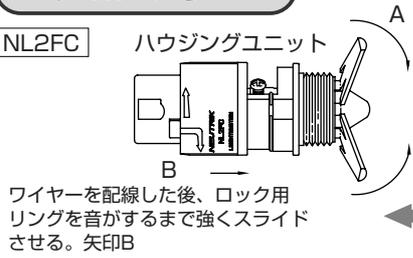




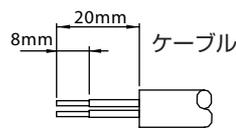
アッセンブリー

NL2FC

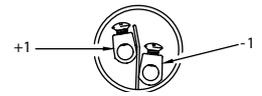
ハウジングユニット



ブッシング



・適合ケーブル外径
NL2FC $\phi 6.0 \sim 10.0\text{mm}$
(チャックはハウジングと一体になっています。矢印A)



ワイヤリングポイント
ワイヤーを端子部に差し込み、上部のネジをドライバーを締め付けます。

NL4FC/NL8FC

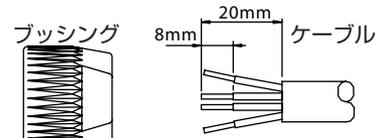
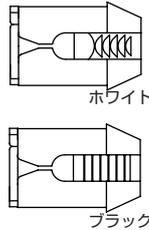
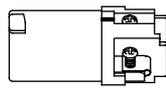
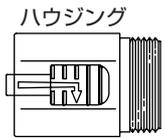
ハウジング

インサート

チャック

ブッシング

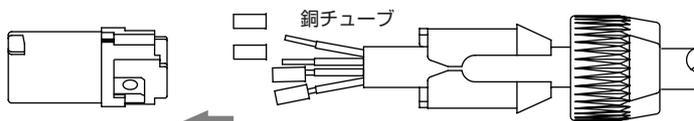
ケーブル



・適合ケーブル外径
NL4FC $\phi 6.0 \sim 10.0\text{mm}$ チャックホワイト
 $\phi 10.0 \sim 15.0\text{mm}$ チャックブラック
NL8FC $\phi 8.0 \sim 20.0\text{mm}$ チャックブラック
($\phi 12.0\text{mm}$ 以上の時はブッシングの黒いキャップをはずして下さい。)

銅チューブの使い方

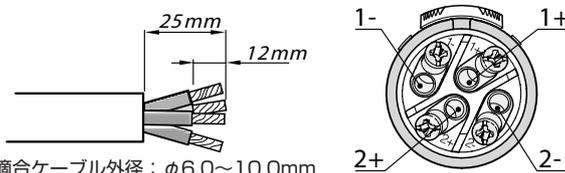
(パワコン、及び旧バージョンのスピコンにのみ付属)



ワイヤーを銅チューブの中へ入れ、そのままインサートの端子部へ差し込み1.5mm (パワコンは2mm) 六角レンチで締め付けます。

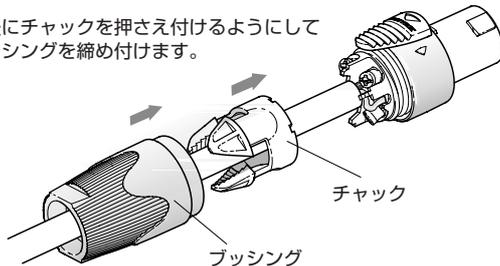
NL4FX

1. ブッシングとチャックを、あらかじめケーブルに通しておきます。
2. ケーブルの先端を下図のように加工し、それぞれ対応する端子に接続します (ネジで締め付けます)。



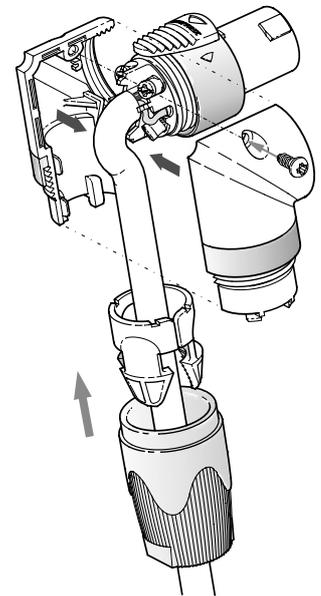
- ・適合ケーブル外径： $\phi 6.0 \sim 10.0\text{mm}$
- ・最大電線サイズ： $6\text{mm}^2 / 10\text{AWG}$

3. 最後にチャックを押さえ付けるようにしてブッシングを締め付けます。



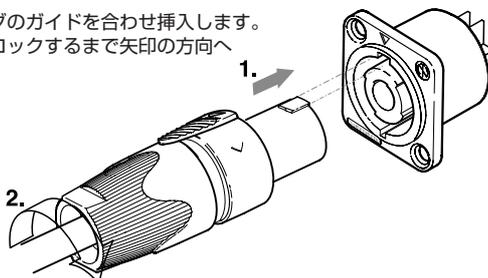
NL4FRX

NL4FRXの場合は、NL4FXと同様のケーブル配線を行った後、図の様にL型カバーをネジで取り付けます。

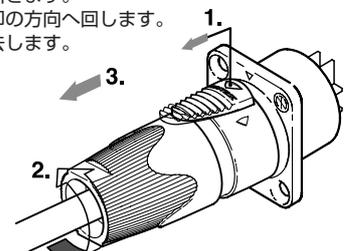


スピコン挿抜の操作手順

1. ハウジングのガイドを合わせ挿入します。
2. カチッとロックするまで矢印の方向へ回します。



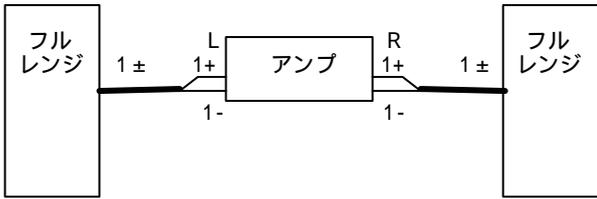
1. ラッチレバーを手前に引きます。
2. レバーを引きながら矢印の方向へ回します。
3. 本体を手前に引き、抜去します。



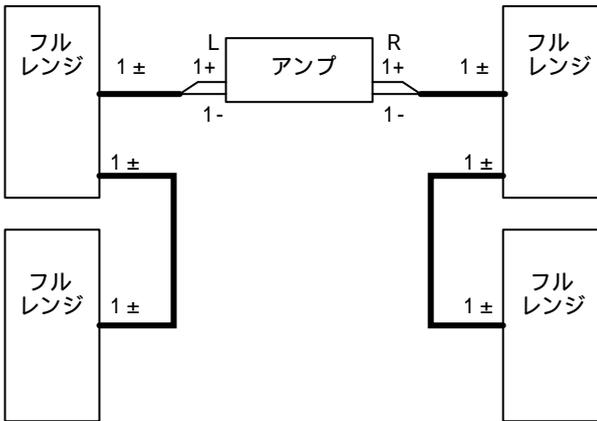
スピコン対応アンプ - スピーカー接続例

* フルレンジ・スピーカーがスピコン1±に接続されている場合の例。

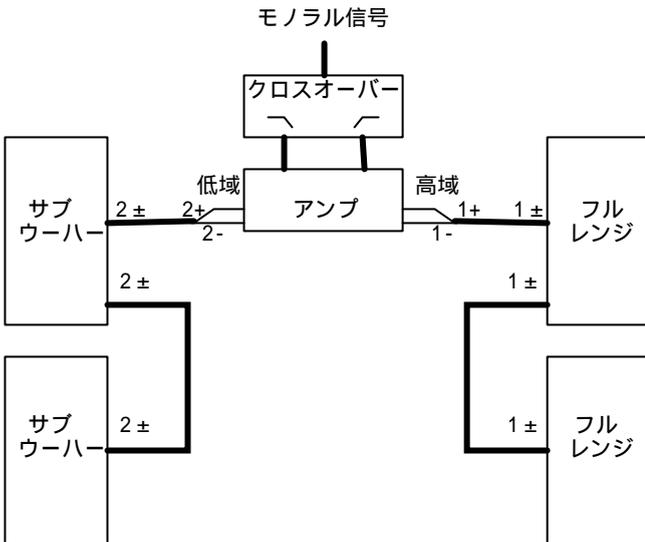
ステレオ接続 (8)
最も標準的な接続です。



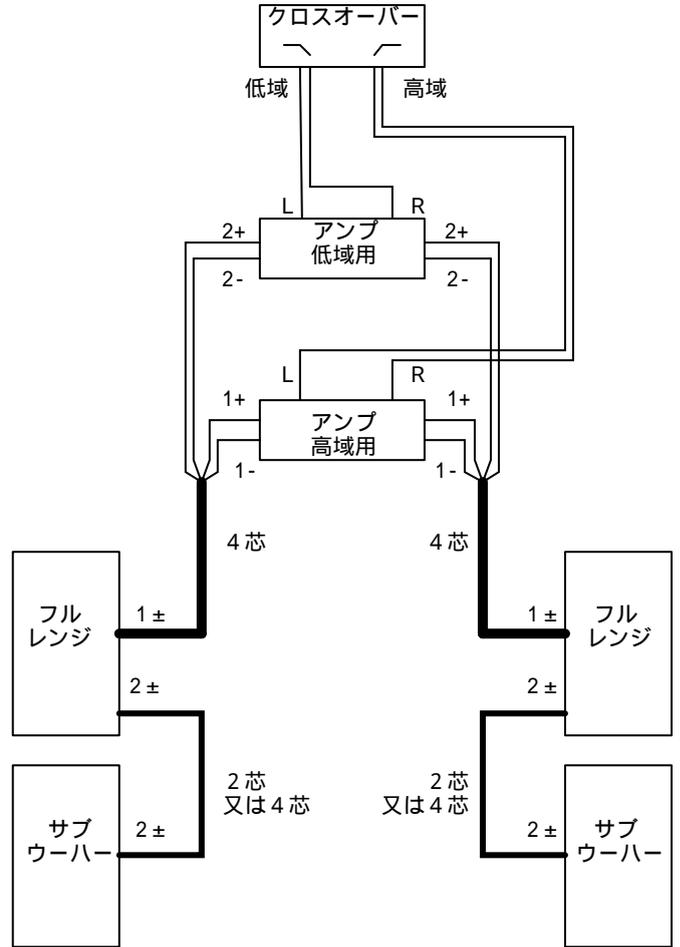
ステレオ・パラレル接続 (4)
1台のアンプで2対向のスピーカーを駆動します。
この時のアンプの負荷は4 になります。



モノラル・バイアンプ接続 (4)
1台のアンプでサブウーハーを使用した2対向の
スピーカーを駆動する場合の接続方法です。
この時のアンプの負荷は4 になります。



ステレオ・バイアンプ接続
クロスオーバーを使用した典型的な接続です。
低域用に大出力のアンプを使用し、最も効果的かつ
操作性とバランスの良い駆動が可能です。



他にも現場によって様々な接続方法があります。
接続の際には、アンプの出力とスピーカーの許容入力
は勿論、アンプの最大負荷 (2 など) と、使用電源
の容量にも十分な配慮を施して下さい。
スピーカーケーブルを10m以上長く引き回す場合は、
十分な線径のケーブルを使用することにより、安全面、
音質面でも良好な結果を生み出します。
特に1000Wクラスの大出力システムの場合、ケーブル
自体が発熱する場合があります。



株式会社サウンドハウス

Professional Sound Equipment Specialist
〒286 千葉県成田市不動ヶ岡 1958